

岡山畜産便り

2025 1

令和6年12月26日発行 第七十六巻第一号



新見市 児玉 亮河さん(和牛繁殖)

もくじ

新年にあたって (仮題) (一社)岡山県畜産協会 代表理事会長 柴田 範彦 …………… 1	[共済フレッシュさん] 家畜診療日誌 美作家畜診療所 船越 史佳 …………… 14
年頭の挨拶 岡山県農林水産部畜産課 畜産課長 森分 哲彦 …………… 2	[畜産現場の声] 祖父から受け継いだ千屋牛 新見市 児玉 亮河 …………… 15
[特集] 県内和牛農家が連携して生き抜く (仮題) (一社)岡山県畜産協会 …………… 3	[生乳検査NOW] 生乳検査NOW：令和6年度上半期 (一社)岡山県畜産協会生乳検査センター … 17
[家畜衛生] 家畜伝染病対策について 岡山県農林水産部畜産課 …………… 8	[お知らせ] 令和6年度岡山県農林漁業近代化表彰 受賞 株式会社福田種鶏場 …………… 19
[技術のページ] 乳房炎による損失を減らすために 農林水産総合センター畜産研究所 …………… 10	[センムのヒトリゴト] 〇〇〇〇〇〇〇〇 (未定) (一社)岡山県畜産協会 中塚 陽二郎 …… 20
[家保のページ] 岡山家畜保健衛生所家畜病性鑑定課の近況紹介 岡山家畜保健衛生所 …………… 12	

〔畜産現場の声〕

祖父から受け継いだ千屋牛

新見市 児玉牧場 児玉 亮河

1 自己紹介

私は1996年に岡山市で生まれ、岡山県立岡山工業高等学校を卒業するまで岡山で育ちました。高校卒業後は、栃木県にある(株)本田技術研究所四輪R&Dセンターに就職し、EU向けの車のディーゼルエンジンの研究開発に携わっていました。

2018年に新見市千屋で和牛繁殖農家を営んでいた祖父の後継者として就農しました。就農時点で繁殖7頭、水稲60aの規模でしたが、2021年に牛舎を新築し、現在は繁殖25頭、放牧地10ha、牧草地2haまで規模を拡大しました。現在の取組みとして、一部一貫経営で数頭肥育し精肉販売まで行う“安定的な6次化経営”に挑戦しています。また祖父の代から継続して、地元農家さんの肥育牛30頭の委託管理も敷地内で行っており、合計約80頭を一人体制で管理しています。

また、児玉家は安永(1772～1781)の時代から続いている家系で私は10代目に当たり、家系図には千屋牛を造成した太田辰五郎(1802～1854)の側近として先祖が関わっている記録があります。そういった背景も相まって祖父・私共に人一倍千屋牛へのこだわりを持っています。

2 就農のきっかけ

幼い頃から祖父のこだわりを近くで見てきた影響で、将来は「こだわったものづくり」ができる職に就きたいと志すようになり、進路の選択肢に和牛農家もありながら、当時好きだった自動車の研究開発職に一度就職しました。企業に就職することで組織に所属することの良し悪しを学ぶことができました。結果、自分が思い描く「こだわったものづくり」ができないと感じ、もう一つの選択肢だった和牛農家の道を決意するようになります。就農に至る2年ほど前から会社の連休の度に千屋に赴き、血統や牛肉に対する祖父のこだわりへの理解を深

め、同時に継ぎたい気持ちを伝え続けていました。そんな中、ある日祖父から電話があり、「腰を手術しないといけなくなったから、帰ってくる気持ちがあるならすぐに帰ってきてくれ」と伝えられ、二つ返事で「分かった、明日辞表を出してくる」と返事をしたのが和牛農家人生の幕開けとなりました。人生の転機というものとは突然やってくるものだなと実感した瞬間でした。

3 一貫経営 牛肉のこだわり

名実共に「千屋牛たらしめる牛」をテーマに生産しています。千屋牛の成り立ちを遡り簡潔に表すと竹の谷蔓牛の母体に但馬牛を掛け合わせた牛が大赤蔓と呼ばれ、後の千屋牛の基礎となったことが、古い文書に記されています。児玉牧場ではそのルーツに則り独自で血統にルールを設けて牛づくりをしています。また、千屋に牧場があるので、ルーツに則った千屋牛を、千屋で産ませ千屋で育てる事ができる環境が整っています。

また、個人的にBMS No. 3～6の牛肉が一番美味しいと感じています。小学生の頃から祖父に色々なBMS No.と血統の組み合わせの牛肉を食べさせて貰い、自己投資で名誉賞牛のコース料理なども食べてきた経験から、赤身の旨味と脂肪の甘み・香りをバランスよく感じられるのがこの規格且つ、祖父の残してきた血統だと思っています。



サシの改良が進んだ現代の和牛と違い、敢えてビタミンフリーで肥育する事でBMS No.を抑え、牛も健康的に飼育する事を狙っています。以上のように血統・産地・BMSについてとことん追求し、自分が美味しいと思える牛肉を同じ価値観の方と共有したいと考えています。

4 今後の展望

自己紹介でも触れましたが、「祖父から受け継いだ千屋牛」での6次化経営を加速させる挑戦を継続していくつもりです。直近の目標として、肥育牛の出荷頭数を増やしていきたいと考えています。そのための出口戦略として、ホームページやSNSなどを活用して児玉牧場の事をより多くの方に知っていただき、先代から続く、こだわりぬいた千屋牛を味わっていただきたいと思っています。

将来的な目標としては、現代のBMS No.を優先した牛づくりに捉われない、児玉牧場ならではの牛づくりを確立することです。「児玉牧場の牛肉は美味しい」とより多くの人に言ってもらえるよう精進します。

なお、次回の精肉販売は2025年の夏ごろに予定しています。出荷予定の牛は、祖父が遺したこだわりの千屋牛になります。18歳の経産肥育牛という一風変わった牛ですが、白黒写真時代の種雄牛を彷彿とさせる牛で、祖父・私共にお気に入りの牛です。出荷後は精肉業者と綿密な打ち合わせをし、カットの方法やどうしても出る固い部位の扱いなどを決める事で、固い肉質で敬遠されがちな18歳の牛でも、味の濃さと食べ易さを両立させた牛肉に仕上げる事を可能にしています。興味のある方はホームページやSNS等からご連絡ください。



児玉牧場ホームページ